

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、JOIは昨年、通常のセミナー開催やビジネス情報誌のリリースに加えて、合宿研修、有料セミナー、企業研修など、多彩なサービスを展開いたしました。昨年8月に開催したエネルギー流通を学ぶ合宿研修では、京都大学大学院の内藤特任教授による迫力と熱意に満ちた講義が行われました。また先月には、シリコンバレー在住37年のエネルギー問題研究者である阪口氏（クリーンエネルギー研究所代表）が訪日された機会をとらえて、米国エネルギーセクターの脱炭素化に関連した有料セミナー（2回シリーズ）を開催しました。

これらの有料サービスには、総合商社、金融機関、建設会社、メーカーなど、さまざまな業種の方々に参加頂きましたが、まだまだ質向上のために改善すべきところはありまして、会員の方々の情報ニーズに機敏に対応しながら、提供するサービス価値をより高めていく必要があると感じております。セミナーや研修後に会員の方々から頂く価値やサービスに対する評価・アドバイスこそが、JOIが自らの立ち位置を再認識し提供する情報の質を一層向上させていくドライバーだと認識しております。今年も会員の方々から評価頂ける実務に即した玄人向けの情報提供に取り組んでまいります。

常務理事 田丸伸介

海外投融資

Vol.32 No.1（通巻187号）
2023年1月25日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

東浩

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311 (代)

URL. www.joi.or.jp

制作協力

(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより 兎に角の風景

2023年は十干十二支で癸卯（みずのと・う）。「努力が実を結ぶ」という明るい意味があるそうです。2023年兎年用の年賀状のうち、兎が餅をつく愛嬌のあるデザインの原点は月の模様です。2023年に入る直前の2022年11月から12月の間に、奇しくも、米国、中国、日本が関わる3つの月面探査プロジェクトにおいて、努力が実を結ぶ飛躍がありました。

11月に有人宇宙飛行が成功した中国は有人月探査の実施条件が整ったと公表。米国NASAが主導する「アルテミス計画」の無人実験宇宙船は11月に出発し、月周回軌道の飛行を経て12月に帰還しました。またその12月には、日本の宇宙ベンチャーが開発した月面着陸船を乗せたスペースX社のロケット打ち上げが成功し、4月に月面着陸する計画です。

38万km先の月面から地球を振り返れば、地球と太陽の両方を観察しながら地球が太陽を中心に回っているのを視覚的に確認できそうです。10年後は、月に行く人が増え、地動説が腑に落ちる映像も多くみられるのかもしれないと期待しております。

地動説は、ガリレオの伝記とともに、日本では認知度が高いですが、不規則に前後する惑星の動きの疎明にこだわった研究者の成果であり、日常生活で夜空を見上げても直感的に理解するのは不可能です。多くの現代人は先人が行った観測の検証結果を言葉の形での既存の知識として保持しているに過ぎません。

個人用PC普及開始から30年、手の平サイズにまで情報ツールが進化した近年では、多様な分野で蓄積された最新の知識を引き出すことが容易になっています。一方で、その知識が指し示す事象類型や論理構造について、地動説に限らず腑に落ちて納得した目線で使えている頻度は低いのではないのでしょうか。

外部事象への対処について、「気づき (Note)」、「識別し (Identify)」、「解して (Understand)」、「取組む (Address)」といった、行動のサイクルが仮定できます。

変化・機会の兆候や有益情報に「気づき」、「識別して」知識をストックすることはツールも使って対応できても、上記のN>I>UとU>Aの間の「U」に峡谷のような深い断絶があり、そこを不消化に飛び越えて「兎に角」行動に踏み出す日常の連続であろうと思います。然は然り乍ら、形を捉え難い「U」の部分については、諦めず整理・拡充することが、より有意な経営判断軸に基づいた行動につながるかと確信しつつ、当財団の活動においても新しい課題・問題の「U」の拡充に注力する所存です。

「兎に角」は、本来は存在し得ないものを指す仏教用語のようですが、現代日本語には「あれこれ案じることをやめ（何かの）行動に着手する」という意味があります。2023年癸卯にて見通しが不確かでも「兎に角」取り組みが継続され、日本において多くの「努力が実を結ぶ」こと、新年において祈念致します。

なお、月と兎の組み合わせを英語で検索すると「東アジアの民間伝承」とされ、グローバルには少数派のイメージのようです。

専務理事 東浩